



2024年9月17日

報道関係者各位

慶應義塾大学

慶應義塾大学アート・センター主催  
「SHOW-CASE PROJECT Extra-1 富井大裕 モノコトの姿」開催  
(2024.10.21~2025.1.24)

慶應義塾大学アート・センターでは、若い世代が学ぶ大学という場でこそ、現代という同時代を生きるアーティストたちの作品と出会い、多様な視点に触れる機会を作ることが重要と考え、現代美術展を企画してきました。新たな試みとして、既成品を用い独自の眼差しでその新たな側面を見出す作品で知られている美術家・富井大裕と3年間にわたる展示プロジェクトを始動します。展覧会は時間と場所が区切られている「出来事」です。通常は一期一会的に成り立つもので、それが展覧会の魅力でもあります。その「出来事」を3年の連続形で考えることによってどのような展開が可能なのか、小さな展示室から新しい「出来事」の挑戦を発信します。

## 1. 基本情報

会期： 2024年10月21日（月）～2025年1月24日（金）  
土日祝・12月28日（土）～1月5日（日）休館  
開館時間： 11:00～18:00  
会場： 慶應義塾大学アート・センター（三田キャンパス南別館1階アート・スペース）  
入場： 無料  
主催： 慶應義塾大学アート・センター  
WEB： [http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/with\\_motohiro\\_tomii\\_2024/](http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/with_motohiro_tomii_2024/)

※ 最新情報は上記、展覧会ウェブサイトをご確認ください。

## 2. 展覧会概要

本年から3年にわたる「SHOW-CASE PROJECT Extra」は、一人の作家が、同じ展示室に連続してアプローチする取り組みです。

SHOW-CASEは展示ケースのことですが、それはいわゆる展示ケースを指すと同時に、「ケースを見せる」と捉えることもできます。ある対応や態度を見せること、ケースを示すということです。かつて、このような考え方で、一つの展示ケースを提案し、そこから様々なアプローチを引き出すプロジェクトのプロトタイプを一緒に作ったのが富井大裕でした。

ある展示の枠組みが与えられてそこに様々なアプローチをする——アート・センターの45m<sup>2</sup>の展示室1室という展示空間もまた、ひとつのSHOW-CASEと捉えられるのではないか。あるいは更に、展覧会という枠組み自体がSHOW-CASEとして機能していると捉えることもできるのかもしれません。そこで、今回の企画はいわば、ショーケースプロジェクトの番外編として「SHOW-CASE PROJECT Extra」と呼ばれることになりました。

この3回の展示を通して、展示空間と作品の関係、展覧会という枠組みそのものを問いかけ、通常は「出来事」として、基本的に単発で発生する展覧会が連続したときに立ち現れるある種の空間性な

ど、この変則的な試みの中で生じる様々な事象や感得できることを企画者、アーティストが共に、そして観客の皆さんと味わい、考えていきたいと思います。

第1回=Extra-1は「モノコトの姿」というタイトルのもと、彫刻の根本を探るような問い合わせが発せられます。ぜひ、会場でアーティストの挑戦をご覧ください。

【SHOW-CASE PROJECT】 <http://www.art-c.keio.ac.jp/research/research-projects/show-case-project/>

〈作家によるステートメント〉

イメージを持たず（と、いっても何かしら持ってしまうわけだが）、期待もせず（それは嘘だ）、ある方法を見つけて、従い、良いも悪いもなく（これも嘘だ）、ギリギリ決着というところで制作を収める。既にある／誰にでもできそうなモノが、重力や摩擦など、どうしようもない事情から何かしらの形になるコト。コトがモノにしがみつき、あるいはモノがコトを道連れに、混戦と熟成の刹那、「これ」としかいいようのない状態が現れる。そんな制作と作品を、私はまとめて「モノコトの姿」と呼びたい。造形が、いわゆる言語とは「別の言語」になり得るとなったら、その姿が発散する気配や雰囲気に可能性はないだろうか。気配や雰囲気を漠然とではなく具体的に、質量として語れるのならば。

富井大裕

### 3. 作家プロフィール

富井大裕（とみい もとひろ）

1973年新潟県生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科彫刻コース修了。活動初期の石膏による小さな人型の作品を経て、スーパーボール、クリップ、鉛筆、ハンマーなど、多種多様な既製品を用いて立体作品を構築する作品スタイルへと移行。並べる、重ねる、束ねる、折り曲げるといったシンプルな手法によって、既製品を本来の意味や機能から解放し、彫刻の新たなあり方を探求し続けている。X（旧Twitter）にて毎日発表される「今日の彫刻」などと併せ、既存の展示空間や制度を批評的に考察する活動も行う。主な展覧会に「ヨコハマトリエンナーレ 2011 OUR MAGIC HOUR 世界はどこまで知ることができるか？」（横浜美術館／日本郵船海岸通倉庫、2011年）、「MOT アニュアル 2011 Nearest Faraway | 世界の深さのはかり方」（東京都現代美術館、2011年）、「アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋——日本と韓国の作家たち」（国立新美術館、東京／韓国国立現代美術館、ソウル）、「Re construction 再構築」（練馬区立美術館、2020年）など。2023年には個展「みるための時間」（新潟市美術館）、「今日の彫刻」（栃木県立美術館）を開催。現在、武蔵野美術大学教授。

【個人ウェブサイト】 <http://tomiimotohiro.com>

### 4. 広報画像と展示予定作品

- a. 富井大裕《塵取りの関係 #1》2020 塵取り、ボルト、ナット（出品予定作品）  
撮影：柳場大 ©Motohiro Tomii, Courtesy of Yumiko Chiba Associates
- b. 富井大裕《紙屑と空間（試作） #1》2020 紙（出品予定作品）  
撮影：柳場大 ©Motohiro Tomii, Courtesy of Yumiko Chiba Associates
- c. 富井大裕《風船と自立 #17》2024 石膏、サイザル麻（出品予定作品）  
撮影：富井大裕 ©Motohiro Tomii, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

- d. 富井大裕 《線の関係 #1-7》 2022-23 塵取り、ボルト、ナット (参考作品)  
個展「今日の彫刻」展示風景 | 栃木県立美術館 | 2023  
撮影：柳場大 ©Motohiro Tomii, Courtesy of Yumiko Chiba Associates
- e. 富井大裕 《嵩張りと連結 #6》 2023 バインダー、ボルト、ナット (参考作品)  
撮影：柳場大 ©Motohiro Tomii, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

※ 画像を利用する際には、クレジットをお付けください。



a.



b.



c.



d.



e.

## 5. 関連イベント

### ◎トーク

日 時 : 2024年11月30日(土) 14:00-15:30

登 壇 者 : 富井大裕  
林 卓行(東京藝術大学教授)

林 卓行(はやし たかゆき)

美術批評、作品論。近年の寄稿に「既製品、拾得物、日用品——〈レディメイド〉あるいは「できあがった彫刻」たち」(富井・藤井・山本編『わからない彫刻:みる編』、武蔵野美術大学出版局、2024年)。翻訳にゴームリー+ゲイフォード『彫刻の歴史』(石崎尚との共訳、東京書籍、2021年)。

### ◎ワークショップ

日 時 : 2024年12月7日(土) 14:00より

講 師 : 富井大裕

※ 予定は予告なく変更されることがあります。

※ 詳細は展覧会ウェブサイトで順次公開いたします。

[http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/with\\_motohiro\\_tomii\\_2024/](http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/with_motohiro_tomii_2024/)

## 6. 会場案内

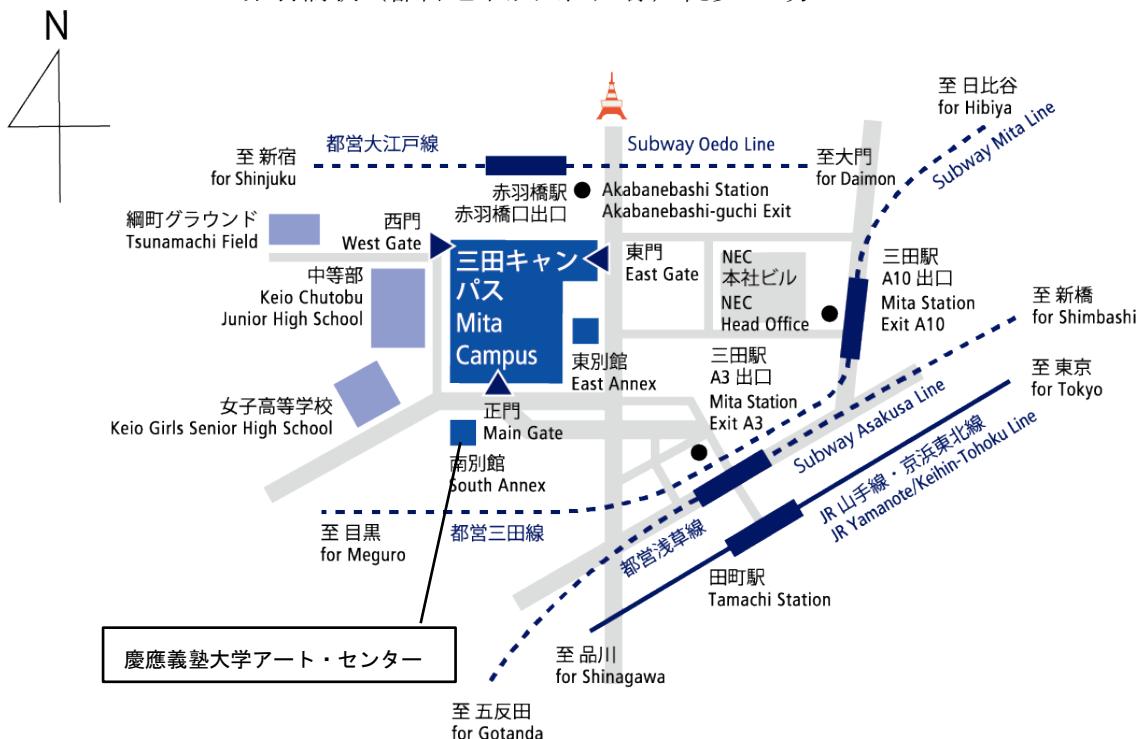
会 場 : 慶應義塾大学アート・センター (三田キャンパス南別館1階アート・スペース)

住 所 : 〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

交通アクセス : 田町駅 (JR 山手線/JR 京浜東北線) 徒歩 8 分

三田駅 (都営地下鉄浅草線/都営地下鉄三田線) 徒歩 7 分

赤羽橋駅 (都営地下鉄大江戸線) 徒歩 8 分



※ ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※ 本リリースは文部科学記者会、各社社会部、文化部等に送信させていただいております。

---

【本発表資料のお問い合わせ先】

慶應義塾広報室（寺西・唐）

TEL : 03-5427-1541 FAX : 03-5441-7640

E-mail : m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>